

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～	第4編 地球や宇宙の科学 第1章 自然景観と自然災害 第2章 太陽系における地球	・地球の内部構造について理解する。 ・火山噴火と地震について理解する。 ・日周運動と自転の関係、年周運動と公転の関係について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
～期末考査	視覚器と聴覚器 植物の光合成	・視覚器と聴覚器について理解できる。 ・明暗調節や色の識別方法について理解できる。 ・音の聞こえるしくみを理解できる。 ・陽生植物と陰生植物の違いを理解できる。 ・光合成曲線を理解できる	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1学期期末 ～2学期 中間考査	植生遷移とバイオーム	・植生遷移の方向性について理解できる。 ・世界のバイオームを理解できる。 ・日本のバイオームを理解できる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期中間 ～期末考査	ミクロメータを用いた顕微鏡観察	・顕微鏡の使用方法を理解できる。 ・ミクロメータを用いて対象物の大きさを測定することができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期期末 ～3学期 学年末考査	生態系とその保全	・生態系とその成り立ちを理解できる ・物質循環とエネルギーの流れを理解できる。 ・生態系のバランスと保全について考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3学期 学年末考査 ～年度末	生物の体内環境	・体液の種類と血液の循環を理解できる。 ・血液凝固の仕組みを理解できる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「新科学と人間生活」数研、プリント（教科書内容を超えた発展的内容に関しては、プリント等で補充を行う。）
学習方法	授業と復習 (予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	科学と人間生活（2）	学年	1	類型	全クラス
----	----	---------	------------	----	---	----	------

学習目標	人間生活を科学の観点から捉え、身近な事物・現象に関する観察や実験を通して、科学に対する興味や関心を高めるとともに、21世紀の科学技術社会において必要とされる科学リテラシーの内容やその考え方を養う。
------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1学期 中間考査			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1学期中間 ～期末考査	第3編 熱や光の科学 第2章 光の性質とその利用 1 波の性質 2 光の種類と性質 5 電磁波の性質と利用	・波の基本的な性質を理解する。 ・光のスペクトルや光の性質、光速の測定方法についての理解する。 ・電磁波の性質と身の回りにおける利用法について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1学期期末 ～2学期 中間考査	第3編 熱や光の科学 第2章 光の性質とその利用 3 光の進み方 4 光の回折と干渉	・波動性をもつ光の伝わり方や回折、干渉の現象について、具体的な事象を確認しながら理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期中間 ～期末考査	第3編 熱や光の科学 第1章 熱の性質とその利用 1 熱と温度 2 熱と仕事	・仕事の定義について理解する。 ・熱現象の基本的な性質について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期期末 ～3学期 学年末考査	第3編 熱や光の科学 第1章 熱の性質とその利用 3 エネルギーとその移り変わり	・エネルギーの定義、仕事とエネルギーの関係、エネルギー保存について理解する。 ・熱と仕事の関係について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3学期 学年末考査 ～年度末	課題研究	・長期休暇中に取り組んだ課題研究を振り返り、適切なテーマ設定や研究の取り組み方について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 （教科書・副教材）	「新科学と人間生活」数研、プリント（教科書内容を超えた発展的内容に関しては、プリント等で補充を行う。）
学習方法	授業と復習 （予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること）
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	物理基礎・物理（４）	学年	2	類型	理系
学習目標	日常生活の自然現象についての観察・実験を通して、基本的な概念や原理・法則を理解させ、その基本概念・法則を基に様々な現象を理論的に実証していく思考力と論理性・探究心を育てる。						
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標			自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	総合物理①第1編 力と運動 第1章 運動の表し方		<ul style="list-style-type: none"> ・速度や加速度など、大きさと向きを持つ物理量が扱えるようになる。 ・等加速度直線運動の式を用いて定量的に理解する。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期中間 ～期末考査	総合物理①第1編 力と運動 第2章 運動の法則		<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな力について理解し、運動方程式が立てられるようになる。 ・力のモーメントと剛体のつりあいについて理解する。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期期末 ～2学期 中間考査	総合物理①第1編 力と運動 第3章 仕事と力学的エネルギー 第4章 運動量の保存		<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の定義、仕事とエネルギーの関係について学び、力学的エネルギー保存則やそれが成り立つ条件を理解する。 ・運動量保存則と反発係数、力学的エネルギー保存則の使い分けについて理解する。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期中間 ～期末考査	総合物理①第1編 力と運動 第5章 円運動と万有引力 第2編 熱と気体 第1章 熱と物質		<ul style="list-style-type: none"> ・円運動、単振動という運動の特徴を学び、単振動を表す数式の意味を理解する。 ・熱力学に関する物理量を理解し、さまざまな状態変化に対して立式できる。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期期末 ～3学期 学年末考査	総合物理①第2編 熱と気体 第2章 気体のエネルギーと状態変化 第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音		<ul style="list-style-type: none"> ・理想気体に当てはまる諸法則について学び、気体の状態変化を定量的に理解する。 ・波の基本的な性質について学び、音波の波としての性質について理解する。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
3学期 学年末考査 ～年度末	総合物理②第3編 波 第3章 光		<ul style="list-style-type: none"> ・ドップラー効果の原理について理解する。 ・光の干渉について、具体例を学び干渉の条件がどのように変化するか理解する。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 (教科書・副教材)	「改訂版 総合物理①②」数研 「2021 セミナー物理基礎+物理」第一学習社						
学習方法	授業と復習 （予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること）						
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み						

令和3年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	物理 (4)	学年	3	類型	理系
----	----	----------	--------	----	---	----	----

学習 目標	日常生活の自然現象についての観察・実験を通して、基本的な概念や原理・法則を理解させ、その基本概念・法則を基に様々な現象を理論的に実証していく思考力と論理性・探究心を育てる。
----------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	総合物理②第 3 編 波 第 3 章 光	・ 光の干渉について、具体例を学び干渉の条件がどのように変化するか理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	総合物理②第 4 編 電気と磁気 第 1 章 電場 第 2 章 電流	・ オームの法則やジュールの法則など、電流に関わる法則について理解を深める。 ・ キルヒホッフの法則を活用して、直流回路についての理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	総合物理②第 4 編 電気と磁気 第 3 章 電流と磁場 第 4 章 電磁誘導と電磁波	・ 磁場や磁束密度などの磁気に関する物理量を理解する。 ・ 電流と磁場の相互関係について、定量的、定性的に理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	総合物理②第 5 編 原子 第 1 章 電子と光 第 2 章 電子と原子核	・ 光の粒子性と粒子の波動性について、具体例を学ぶことで理解する。 ・ 水素原子モデルに対するボーアの理論について理解する。 ・ 放射線の種類と性質、発生する仕組みについて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～年度末	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校物理に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「総合物理①②」数研 「2020 セミナー物理基礎+物理」第一学習社
学習方法	授業と復習 (予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	化学基礎（２）	学年	１	類型	全クラス
----	----	---------	---------	----	---	----	------

学習 目標	①原子の構造，電子配置と周期律の関係及び，化学結合のしくみについて理解できる。 ②化学反応の量的関係，酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる。
----------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1学期 期末考査	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 2章 原子の構造と元素の周期表	①多様な物質について、整理・分類し、共通した要素や、個々の相違点を調べ、物質の成り立ちを理解する。②物質を構成する基礎的な粒子である原子について理解する。③元素の性質から考え出された周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
	1編 物質の構成 3章 化学結合	①イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。②共有結合のしくみを理解し、分子式をはじめ電子式や構造式が書けるようになる。③金属結合について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1学期期末 ～2学期 中間考査	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	①物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体についてはさらに体積との関係を学び、物質量の考え方を身につける。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期中間 ～期末考査	2章 酸と塩基	①酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を理解する。②pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液は必ずしも中性でないことにもふれ、理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期期末 ～年度末	3章 酸化還元反応	①酸化・還元の定義を理解し、電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3学期 学年末考査 ～年度末	3章 酸化還元反応	①電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂 化学基礎」東京書籍 「四訂版 リードLightノート 化学基礎」数研出版
学習方法	授業と復習
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業での活動の取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	化学 (3)	学年	2	類型	理系
----	----	----------	--------	----	---	----	----

学習 目標	①原子の構造、電子配置と周期律の関係及び、化学結合、化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則を理解する。②化学変化に伴うエネルギーの出入り、反応速度および化学平衡を探究し、化学反応に関する概念や法則を理解する。③気体、液体、固体の性質を探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡および溶液の性質について理解する。
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	2 編 化学反応とエネルギー 2 章 電池と電気分解	①電池の原理と反応について理解する。②電気分解の原理と金属のイオン化傾向，ファラデーの法則について理解・習得する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～1 学期 期末考査	1 編 物質の状態 1 章 物質の状態 2 章 気体の性質 4 章 化学結合と固体の構造	①熱運動と分子間力・気液平衡・蒸気圧曲線・状態図等の考え方について基本的な知識を習得する。②気体の各法則や理想気体と実在気体の意味を理解する。③各結晶の構造と種類について理解・習得する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	1 編 物質の状態 3 章 溶液の性質 2 編 化学反応とエネルギー 1 章 化学反応と熱・光 3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ	①溶液の法則について意味を理解・習得する。②熱化学方程式とヘスの法則について理解・習得する。③化学反応速度の意味と表現方法，濃度・温度・触媒・固体表面積等の影響を理解・習得する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	3 編 化学反応の速さと平衡 2 章 化学平衡 3 章 水溶液中の化学平衡 4 編 無機物質 1 章 周期表と元素 2 章 非金属元素の単体と化合物	①化学平衡の意味，ルシャトリエの原理について理解・習得する。②典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	4 編 無機物質 3 章 典型金属元素の単体と化合物 4 章 遷移元素の単体と化合物 5 章 無機物質と人間生活	典型元素と遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	無機化学まとめ	無機化学分野の内容を系統立てて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂 新編 化学」東京書籍 「六訂版 リードα 化学基礎+化学」数研出版 「四訂版 サイエンスビュー 化学総合資料」実教出版
学習方法	授業と演習
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業での活動の取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	化学 (4)	学年	3	類型	理系
----	----	----------	--------	----	---	----	----

学習 目標	①無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解する。②有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解する。③高分子化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解する。
----------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	5 編 有機化合物 1 章 有機化合物の特徴と構造 2 章 炭化水素	・ 脂肪族炭化水素や官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	5 編 有機化合物 3 章 アルコールと関連化合物 4 章 芳香族化合物 5 章 有機化合物と人間生活	・ アルコールやアルデヒドなどの酸素を含む脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連づけて理解する。 ・ 芳香族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	6 編 高分子化合物 1 章 天然高分子化合物 2 章 合成高分子化合物 3 章 高分子化合物と人間生活	・ 天然高分子化合物及び合成高分子化合物の構造や性質および合成について理解する。 ・ 典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	4 編 無機物質 4 章 遷移元素の単体と化合物 5 章 無機物質と人間生活	・ 遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～年度末	総合演習	・ 化学基礎の内容を総復習し、基礎を固め、さらには発展問題の演習を行い、既習内容の理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂 新編 化学」東京書籍 「六訂版 リードα化学基礎+化学」数研出版 「四訂版 サイエンスビュー 化学総合資料」実教出版
学習方法	授業と演習
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業での活動の取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	生物基礎 (2)	学年	2	類型	文系
----	----	----------	----------	----	---	----	----

学習 目標	日常生活や社会との連携を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	予備学習 1. 顕微鏡観察 2. ミクロメーター 第 1 章 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	・顕微鏡やミクロメーターを適切に使用することができる。 ・生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。 ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	第 1 章 3. 光合成と呼吸 第 2 章 1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。 ・遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。 ・DNA が複製、分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。 ・DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	第 3 章 1. 体内環境としての体液 2. 腎臓と肝臓による調節	・体内環境が保たれていることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	第 3 章 3. 神経とホルモンによる調節 4. 免疫	・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。 ・免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	第 4 章 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム	・陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。 ・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	第 5 章 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ 3. 生態系のバランスと保全	・生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解する。 ・生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂版 生物基礎」数研出版 「リードLightノート 生物基礎」数研出版 「フォトサイエンス 生物図録」数研出版
学習方法	授業と復習 (予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス (案)

教科	理科	科目 (単位数)	生物基礎 (1)	学年	3	類型	文 I
----	----	----------	----------	----	---	----	-----

学習 目標	日常生活や社会との連携を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	遺伝の法則	・メンデルの遺伝の法則を理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	遺伝の法則	・血液型など様々な遺伝の仕組みについて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	生物の体内環境	・体内環境が保たれていることを理解する。 ・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	生物の体内環境	・体内で様々な細胞が関わることで健康が維持されていることを理解する。 ・免疫と病気の関係について理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	総合演習	・既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	総合演習	・既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂版生物基礎」数研出版 「フォトサイエンス 生物図録」数研出版
学習方法	授業と復習 (予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	生物基礎 (2)	学年	3	類型	文Ⅱ
----	----	----------	----------	----	---	----	----

学習 目標	日常生活や社会との連携を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
----------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	総合演習	・ 既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂版生物基礎」数研出版 「ニューグローバル 生物基礎」東京書籍 「フォトサイエンス 生物図録」数研出版 「チェック&演習 生物基礎」数研出版
学習方法	予習と授業 (授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	生物基礎（２）、生物（２）	学年	２	類型	理系
----	----	---------	---------------	----	---	----	----

学習 目標	日常生活や社会との連携を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	生物基礎 予備学習 1. 顕微鏡観察 2. ミクロメーター 第 1 章 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 光合成と呼吸 第 2 章 1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	・顕微鏡やミクロメーターを適切に使用することができる。・生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。・遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。・DNA が複製、分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。・DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	生物基礎 第 3 章 1. 体内環境としての体液 2. 腎臓と肝臓による調節 3. 神経とホルモンによる調節 4. 免疫	・体内環境が保たれていることを理解する。・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。・免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	生物基礎 第 4 章 1. 植生とその成り立ち 2. 植生の遷移 3. 気候とバイオーム 第 5 章 1. 生態系とその成り立ち 2. 物質循環とエネルギーの流れ 3. 生態系のバランスと保全	・陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。・生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解する。・生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	生物 第 1 章 1. 生体を構成する物質 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造 5. 物質輸送とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	生物 第 2 章 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化 第 3 章 1. DNA の構造と複製 2. 遺伝情報の発現	・呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解する。・光合成によって光エネルギーを用いて有機物が作られる仕組みを理解する。・窒素同化について理解する。・DNA の複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3 学期 学年末考査 ～年度末	生物 第 3 章 3. 遺伝子の発現調節 4. バイオテクノロジー	・原核生物と真核生物の遺伝子の発現調節の仕組みを理解できる。・バイオテクノロジーとその応用について理解し、その活用方法について考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	「改訂版 生物基礎」「改訂版 生物」数研出版 「フォトサイエンス 生物図録」数研出版 「リードLightノート 生物基礎」「リードLightノート 生物」数研出版
学習方法	授業と復習 (予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること)
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み

令和3年度（2021年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	生物（４）	学年	3	類型	理系
学習目標	日常生活や社会との連携を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。						
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標			自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	第4章 生殖と発生 第5章 動物の反応と行動		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な遺伝によって遺伝子の多様性が生まれていることが理解できる。 ・動物と植物の発生について、遺伝子の発現と関連づけて理解できる。 ・動物や植物が刺激を受容し、それに適した反応を示す過程を理解できる。 ・動物の行動について理解できる。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期中間～ 期末考査	第6章 植物の反応と行動 第7章 生物群集と生態系		<ul style="list-style-type: none"> ・植物の環境応答におけるホルモンの役割を理解できる。 ・生物の種内・種間関係について理解できる ・生態系では生物の質・量的なバランスが維持されていることを理解できる。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期期末～ 2学期 中間考査	第8章 生命の起源と進化 第9章 生物の系統		<ul style="list-style-type: none"> ・地球の誕生から現在に至るまでの生物の進化の過程を理解できる。 ・生物の系統関係を形態的・遺伝的な観点から理解できる。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期中間～ 期末考査	総合演習		<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期期末～ 3学期 学年末考査	総合演習		<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
3学期 学年末考査～ 年度末	総合演習		<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の発展的問題の演習を行い、高校生物に対する理解を深める。 			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 （教科書・副教材）	「改訂版 生物基礎」「改訂版 生物」数研出版 「フォトサイエンス 生物図録」数研出版 「リードLightノート 生物基礎」「リードLightノート 生物」数研出版 「ニューグローバル 生物基礎+生物」東京書籍 「チェック&演習 生物」数研出版						
学習方法	授業と復習 （予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること）						
評価方法	①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み						

令和3年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	地学基礎（２）	学年	2	類型	文系
学習 目標	地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解させ、地学的な探究の方法を身につけさせるようにするとともに、地球の自然環境と日常生活や社会との関わりを考えることができるようにする。						
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標			自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	第1部 固体地球とその変動 第1章 地球 1 地球の概観 2 地球の内部構造		・古代の地球の形と大きさの測定法を理解する。 ・地球の形は楕円体であることを理解する。 ・地球内部の層構造と構成物質を理解する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期中間 ～期末考査	第2章 活動する地球 1 プレートと地球の活動 2 地震 3 火山活動と火成岩の形成		・プレートの動きと境界について理解する。 ・地震の分布とメカニズムの関係を理解し、防災意識を高める。 ・火山の分布とプレートテクトニクスの関係を理解する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1学期期末 ～2学期 中間考査	第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方 1 堆積岩とその形成 2 地層と地質構造 3 地層と歴史の区分と化石		・風化、侵食、堆積作用と地形との関係を知る。 ・地層累重の法則や堆積構造を理解する。 ・化石の意義を理解し地層の対比を行い、地質時代を理解する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期中間 ～期末考査	第2章 地球と生命の進化 1 先カンブリア時代 2 顕生代		・地球誕生以来の地球の歴史における先カンブリア時代を考察し、各時代の出来事を理解する。 ・生物の進化と地球環境の変化を考察し、各時代の出来事を理科する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2学期期末 ～3学期 学年末考査	第3部 大気と海洋 第1章 大気の構造 1 大気圏 2 水と気象		・大気の組成と気圧および大気の層構造と特徴を理解する。 ・対流圏での水の状態変化と気象現象について理解する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
3学期 学年末考査 ～年度末	第2章 太陽放射と大気・海水の運動 1 地球のエネルギー収支 2 大気の大循環 3 海水の循環		・地球のエネルギー収支と温室効果を理解する。 ・熱の輸送と大気の大循環の関係を理解し、風吹き方を知る。 ・表層海流と大気の大循環の関係や深層循環を理解し、長期の気候変動について考察する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 （教科書・副教材）		「地学基礎」啓林館 「ニューステージ新訂地学図表」浜島 「研究ノート」博洋社					
学習方法		授業と復習 （予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること）					
評価方法		①定期考査 ②提出物 ③授業で行う活動への取り組み					

